

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホームグッドスマイルズ		
所在地	山口市桜島2-2306-1		
電話番号	083-933-6188	事業所番号	3590300020
法人名	医療法人 英知会		

訪問調査日	平成 20 年 12 月 8 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 23 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	23 人	常勤	15 人 非常勤 8 人 (常勤換算 19.5 人)

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	56,000 円	敷金	有	100,000 円
保証金	有	100,000 円	償却の有無	有	
食費	朝食	250 円	昼食	570 円	
	夕食	650 円	おやつ	夕食込み 円	
その他の費用	月額	36,000 円			
	内訳	光熱水費 24,000 円		共益費 12,000 円	

### (4) 利用者の概要 (11月18日現在)

利用者数	18 名		男性	3 名	女性	15 名
	要介護 1	5	要介護 4	1		
	要介護 2	3	要介護 5			
	要介護 3	9	要支援 2			
年齢	平均	85 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 原田内科胃腸科医院、佐々木外科病院 歯科 児玉歯科医院
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

事業所の一方にはスーパーやドラッグストアがあり、一方には住宅地や田園が広がり、利用者は毎日の散歩や買い物ができ、JR線がすぐ近くを通っており、居室内からSLの走りを楽しむこともできます。「利用者が今までの生活の延長で地域の中で暮らしていける」という理念の実現を目指した支援がされています。研修関係の情報を得て、職員が段階的、計画的に外部研修が受講できるように支援し、内部研修も含めて、職員の資質やケアの向上に繋がるよう職員を育てる取り組みをされています。

### (特徴的な取組等)

食事は平日は、併設施設のデイサービスからの配食で、土曜日、日曜日は事業所で調理されていますが、化学調味料を使わず自然の食材で、栄養士の管理の下、昼食には、殆んど毎日お刺身を提供するなど、利用者の嗜好を大切に栄養バランスのとれた食事を提供され、利用者は食事を楽しんでいます。家族への報告は毎月、事業所での様子を写真に撮り、健康状態や暮らしぶりを書いた手紙にして送られており、家族から喜ばれています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果を受けて、地域密着型サービスとしての理念の作成、自己評価の全職員での取り組み、外部研修への参加、利用者を尊重した言葉かけや対応の接遇研修の実施など、具体的に改善されています。

### (今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を理解され、職員全員が自己評価して分かる範囲で書き込み、管理者が全体のとりまとめをして、再度、全員で確認されています。各項目を自己評価する事で気づきや反省があり、評価を活かせるよう取り組まれています。

### (運営推進会議の取組状況)

自治会長、民生委員、利用者、家族、地域包括支援センター職員、消防団員等のメンバーで定期的に関催され、事業所の活動報告等を行い、意見交換をして、サービスに活かしておられます。

### (家族との連携状況)

毎月、利用者一人ひとりの写真入りの手紙で暮らしぶりや健康状態を伝え、金銭管理の状況も一緒に報告されています。ホームだよりも毎月発行し送付されると共に、職員の異動は面会時に知らされています。電話や面会時にも、報告されたり、家族の意見や要望を聞くなどされています。

### (地域との連携状況)

地域の盆踊りや、中学校、大学の催し、ミサなどに出かけたり、大学の主催する認知症の学習会に参加された地域住民等が見学されたり、小学4年生の課外活動での訪問を受けて交流されています。毎日の散歩や近くのスーパーなどでの買い物の時など、地元の人と挨拶を交わしたり、話をしたりされ日々交流されています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「家庭的な環境のもとで、安心と尊厳のある生活を可能な限り自立して営むことが出来るように、また、今までの生活の延長で地域の中で暮らしていけるよう心がける」という事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示し、毎日のミーティング時に、全員で唱和し、共有している。具体的な実践方法について話し合い、日々取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の盆踊りや中学校、大学の催し、ミサなどに出かけたり、大学の主催する認知症の学習会に参加した地域住民(30人)の見学や、小学4年生の課外活動での訪問を受け交流している。毎日の散歩や近くのスーパーなどで買い物の時など、地元の人と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価は職員全員で分かる範囲で書き込み、管理者がまとめ、再度全員が確認している。職員一人ひとりが各項目を自己評価することで気付きや反省があり、評価の意義も理解している。外部評価の結果は検討し、具体的な改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>自治会長、民生委員、利用者、家族、地域包括支援センター職員、消防団員等のメンバーで定期的開催している。事業所の活動報告をし、意見交換してサービスに活かしている。消防団員の協力で消火器の使い方など、消防訓練の実施をしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営上で不明なことが生じた場合は、電話や直接市の担当窓口に出向き、相談したり、助言を得るなどして、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、利用者一人ひとりの写真入の手紙で暮らしぶりや健康状態を伝え、金銭管理の状況も一緒に報告している。職員の異動は面会時に知らせている。ホーム便りも毎月発行し送付している。電話や面会時等で、その都度様子を伝えている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	電話や面会時に家族等が意見を言いやすいように取り組み、出た意見を運営に反映させている。苦情受付窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。第三者委員は選出していない。	・第三者委員の選任
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員23名を確保し、利用者の状況の変化や要望に応じて柔軟に対応している。職員の都合や病気による急な休みのときは、事業所に近い職員の順に作成している連絡網を利用し、職員の交代で勤務調整している。看護師には夜間でも連絡が取れる体制になっている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間の異動はあるが、日頃から、散歩や行事など利用者、職員共に行き来し、交流しているので顔馴染みの関係ができています。新任職員には1～2週間の重複勤務を取るようになっているが、取れないときは勤務職員数を一人増やして、新人をカバーし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は、研修関係の情報を得て、職員を段階的、計画的に受講の機会を勤務の一環として提供している。研修後はミーティングや報告書で共有を図っている。内部研修では、接遇や感染症等について学習している。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修や交流、意見交換、他事業所の見学等を行ない、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	併設施設のデイサービスの利用をしてもらい、入居になる場合は「今日はお泊りです」などと説明し、自然な形で入居できている。希望者には見学をしてもらっている。入居後は、自宅との行き来は自由にしてもらい、家族から度々電話をしてもらったり、面会をもらうなど馴染めるよう工夫している。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	畑仕事で野菜の植え方や育て方を利用者から教わったり、草取りや、掃除、洗濯、買い物など利用者と職員が一緒にしながら、職員は「手伝ってもらう」のではなく、「何か手伝いましょう」という意識を持って、支え合う関係を築いている。1日に1度は利用者と共に「笑う」機会を作っている。	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	生活歴や日々の関わりの中で、その都度場面をとらえて、一人ひとりはどう過したいのか、希望や意向の把握に努めている。新しい情報は職員間で報告し合い、常に共有し、本人本位に検討している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	把握した本人の思いや家族からの意向、主治医の意見を参考に、ケアカンファレンスで話し合い、職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	記録やモニタリングはセンター方式を活用して、3ヶ月に1回モニタリングをし、介護計画の見直しをしている。利用者の状況に変化が生じた場合は、ミーティングや毎日の申し送り後にも話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	受診の送迎や付き添い、買い物等、一人ひとりの要望に応じて外出などの支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員が協力医療機関(法人医師)を主治医としており、主治医が毎日訪問し、利用者の様子を観たり、必要時は診察も行なっている。歯科や眼科などのかかりつけ医には、家族と協力し、受診の支援をしている。必要時には歯科の往診もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や看取りに関する指針を作成し、入居契約時に家族等に説明して同意書をもっている。状況の変化に応じてその時点の最善の道を決めるよう、その都度話し合い、家族、主治医、関係者と職員全員で方針を共有している。これまでに看取りの事例はない。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう接遇研修を実施している。不適切な言葉かけに気付いた時は、口頭で注意したり、注意書きを職員本人に渡している。記録等の個人情報は、鍵付きのロッカーへ保管している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの思いや状態、ペース等を大切に、職員側の都合で強要せず、常にどうしたいのか「今忙しいですか？」等、本人の都合や気持ちを大切にしながら支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	デイサービスからの配食であるが、土、日は食事作りを利用者と共にしている。盛り付けや台拭き、後片付けなどできることを利用者にしてもらい、季節に合わせた献立や誕生会の特別食など、食事を楽めるよう支援している。職員は弁当持参である。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日、13時～16時30分の間可能である。利用者の希望に合わせて自由に入浴でき、楽めるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ちぎり絵、読書、ラジオ体操、畑や花壇づくり、花やイルミネーション見学の為のドライブなどや、月毎の行事も行い、一人ひとりが活躍できる場面づくりや楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の一人ひとりの希望にそって、毎日、散歩や買い物に出かけている。ぶどう狩りやりんご狩り、花やイルミネーションを観に行くなど外出が楽しめるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	「ダメ」という言葉を使わないように注意したり、個人の尊厳とは何かについて具体的に話し合ったりして、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全ての職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと、事故報告書に記録し、再発や一人ひとりの事故防止について検討している。事故防止マニュアルを作成し、看護師による与薬指導やダブルチェックとチェック表の利用による配薬、与薬の事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や自己発生時に備えて看護師が内部研修を実施している。一部の職員は救急救命法の研修を受講している。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	電話連絡網での所要時間、消火、通報訓練を実施している。消防団員には、運営推進会議に出席してもらい、消防訓練への協力を得ている。地域の人々の協力も得られるよう働きかけている。避難場所は散歩コースとして利用者と一緒に確認している。	○ ・夜間想定避難訓練の実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の目的、副作用、用量などについて職員は理解している。看護師による与薬指導などで、一人ひとりにあった服薬の支援をしている。病状の変化も職員は情報を共有して、主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。義歯の清掃、歯ブラシ交換は定期的に行っている。口腔内の清潔保持については、法人内の歯科衛生士に助言を受けている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量、体重、バイタルサインを毎日記録し、変化が直ぐ分かるようにグラフ化し、利用者一人ひとりの体調管理に活用している。平日はデイサービスからの配食で土日の食事については栄養士の指導を受け、栄養バランスのとれた食事を提供している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症予防マニュアルを作成し、手洗い、うがい、予防接種、定期的寝具の交換、調理時のアルコール消毒など、予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホーム内は床暖房で暖かく、明るさも適度で、BGMが心地よい音量で流されている。クリスマスツリーなどの季節に応じた飾り付けや花を飾ったり、利用者と職員で作成したちぎり絵の毎月のカレンダーを貼ったり、季節が感じられるよう工夫している。廊下にソファを置くなどして、居場所作りをして利用者が心地よく過ごせるよう支援している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具、思い出の写真、生活用品を持ち込んでいる。家族やホームで撮った写真などが飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	

## 自己評価書

### 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム グッドスマイルズ
所在地	〒753-0021 山口県山口市桜畠2306-1
電話番号	083-933-6214
開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日

### 【サービスの特徴】

当施設では、入居者の方々に対し、よりよい生活を送っていただけるよう、食事、毎日の入浴、季節を感じることでできる行事などに力をいれております。また、入居者の機能維持を目的として、毎日のラジオ体操や機能訓練、脳活性のプログラムを取り入れ参加していただいております。各ユニットにはピアノやオーディオ機器を取りそろえ、音楽鑑賞の時間を作っています。

### 【実施ユニットの概要】 (11月1日現在)

ユニットの名称	こずもす			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護1	3	要介護4	1
	要介護2	1	要介護5	0
	要介護3	4	要支援2	0
年齢構成	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 95 歳	

### 【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者とユニットにいる職員全員が一人一人質問事項を読み、分かる範囲を書き込んでもらって最後に全体をまとめました。この自己評価をまとめたものを再び職員一人一人に読んでもらいます。質問事項を読み、方針や運営をしていく中で必要な事があることに気づいて頂けたのではないかと思います。
評価確定日	平成 20 年 11 月 18 日



## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印、(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>今後はもっと地域行事など積極的に出ていきたい。</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>新しいスタッフや入居者家族も伝わるようパンフレット等に掲載せる。</p>
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>毎日、ミーティング時に理念を復唱している。</p>
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>毎日(朝、夕)カンファレンスを行っている。</p>
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>今後は施設行事に家族の方や地域の方等の参加をとり入れたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>施設行事に近隣の方々が参加できるように考える。</p>
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>今後も地域の行事を把握し、積極的に参加したい。地域の学校行事(発表会、演奏会など)へ出かけてみたい。</p>
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>今後も顔見知りから遊びに来てもらえるよう話かけを行う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を回覧し、皆に読んで理解していただくようにしている。	今後も自己評価・外部評価をしていきたい。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	4, 10月に消防訓練を実施した。	夜間帯・地震・水害時の避難訓練を実施していきたい。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営上不明な事がでた場合、 や直接市と相談し実行している。	山口市の判断が重要なので直接教えていただいたり、インターネットで調べたりする。
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	それぞれ職員が個別に学んでいる。	今後も研修やミーティング等で知識を深め、必要な利用者へは活用したい。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修により、法的にも学習している。施設での基本的人権の尊重は行われている。	研修を受けてきて管理者職員は報告書へのまとめ、スタッフへ伝えている。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に説明会や個別に家族と十分話し合いの場をもち、施設側の方針と家族の意向を互いに理解できるように働きかけている。	個別での十分な話し合いを徹底し、継続させていく。
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族や友人と自由に面会、外出していただいている。入居者の意見や要望を聞き入れ、できるだけ解決するよう働きかけている。	今後も家族や入居者からいつでも意見が言いやすい環境をつくっていく。
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に1度、本人の写真入りの手紙やお小遣い出納帳や領収証を送付している。	職員体制を整え、随時家族へ報告していけたらと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		家族等から情報開示の要求がいつあってもいいようにしていく。
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		すみやかに解決できるようにしている。
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		緊急の場合は、ミーティングまで待たず、職員を集め検討する。
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		要望や意見があればすぐ対応していく。
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		要望、意見、不満があれば個別に話を聞く機会をもちたい。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		月1回のミーティングと毎日の申し送り時にミニカンファレンスを行っている。
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		それぞれの年代はこれからもそろえていきたい。
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		今後、研修や交流を通し話をする機会を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		ストレス具合をみきわめ、できる改善はすみやかに行う。
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		スタッフ全体で共有し日々利用者の笑顔がみられるように努めていきたい。
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		今後も管理者には、研修へ積極的に行ってもらい、仕事に対して、質の向上ができるように努めていきたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入所された時、スタッフ全員にその方の情報共有を行っている。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		今後もセンター方式を活用しつつ、ご本人の状況や家族間の様子を知るよう努める。
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		今までのやり方ですすめていく。
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		今後も施設への移行が本人に受け入れられるよう、デイサービスから利用をはじめたりし、入所について本人が「だまされた」と思わないよう実施していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		今後はもっと関わりをもつ時間を増やしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 <b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた時や、入居者に特別な事があった場合など、家族と話し、一緒に考えることにしている。一ヶ月の様子を顔写真と共に文章にて家族に送付している。		今後はもっと家族の方へも行事へ参加していただき、利用者、スタッフと交流を深めたい。
34 <b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	スタッフから声かけを行い、日々様子を報告している。		これからも家人への情報発信を行っていききたい。
35 <b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族と相談しながら、友人の面会や親戚との面会を受け入れ、馴染みの方々との関係が保てるようにしている。		今後も継続していく。
36 <b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、合う人合わない人を見極め、手伝いや作業を行う。		入居者同士が口論となっている場合などトラブル時にはスタッフが間に入り話を聞くようにしている。
37 <b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	特に退去者に対する交流はこちらからは行っていない。		今後、研修や交流を通し話をする機会を作っていきたい。必要性があれば対応していく。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15) <b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活する中での不満や思いを聞き入れ、対応している。本人の気持ちになり、落ち着けるような声かけをしている。		今後も一人一人へ関わりをもつ時間を増やし、希望、要望などを生活の中で取り入れていきたい。
39 <b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	朝のお茶(10時)、昼のおやつ(15時)など、リビングへ自然と集まれるような雰囲気をつくり、自然に話が出来ると環境をつくる。		今後も訪問者や家族が来られた時は、お茶をお出しし、その時に話しを持ちかけ、自然に聞けることをすすめたい。
40 <b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	どのように日中を過ごしているか、心身の健康状態も含め、把握するよう努めている。		今後も入所者一人一人に対し目配り、気配りをし現状の把握に努める(ケア記録へ日中、夜間の様子を記入)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、スタッフの意向を取り入れ、必要に応じて介護計画を作成している。	家人の来訪時、要望があれば声掛けを行っている。
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月のケアプランの見直しを行い、モニタリングをすることで本人にあったプランを提供している。	今後もプランの見直しを行い、現状に即したプランを提供していく。
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録を個別に書き込み、スタッフ同士で情報の共有を行っている。	スタッフ間の報告、連絡、相談を密に行い、連絡ミスを防ぎたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	看護師を配置し、病状や通院について家族と連絡をとりながら行うことができています。	今後も継続していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	推進委員会の定期的開催により、地域のそれぞれの分野の方と話し場をつくっている。	今後もこの会の充実に向けた取り組みをしていきたい。
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	宮野地区の方が認知症デイサービス、グループホームへ見学にこられた。家族、友人などいつでも訪問を受け入れしている。	今後も行事を開催していく中で、地域や家族への関わりを増やしたい。
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	特に行っていない。	今後もその必要があれば支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		今後の情報交換を行い、協働していきたい。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		今のままでできる限り医師へ来所していただきたい。
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		今後も状況の変化を主治医へ報告していく。
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		今後も病院側の看護師と施設側の看護師は利用者さん一人一人の事を今まで通りすみやかに報告確認し合う。
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		今後も必要あれば実行する。
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		今後も文書による納得、確認そして了承印をおして頂く。また、その都度話し合っ最善の道を決めていく。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		今後、主治医の判断を基にその時が来たなら家族、本人の希望をすみやかに取り入れ決定していきたい。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		今後、必要があれば他機関、ケアマネと連携を図る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	個人情報はカギ付きのロッカーに保管している。	今後も引き続き実行していく。
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	入居者1人1人のレベルに合わせた声かけや支援を行い、なるべく本人の意向に添えるよう配慮している。	今後も本人に合わせた声掛け、支援を行っていく。
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	本人のできる事や、出来る方法を見極め、実行していただく配慮をしている。	今後もできない事ややりたくない事を無理に誘導しない。
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	一人一人のペースを考え、強要しないよう配慮している。	共同生活である事も入居者の方へ理解していただき、皆さんと協力しながら生活していただきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	外出して、馴染みの美容室へ行かれる入居者、出張利用美容車を利用する。入居者が好みの身だしなみができるよう支援している。	今後も入所者のお好きなように選んでいただき、家族へも了解をえて行っているののでこのまま継続していく。
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	夏はそうめん流しで風物を取り入れ、かき氷など懐かしいおやつなど準備した。誕生会はお寿司を作ったり工夫している。食事の準備や片付けはできる範囲手伝っていただき、スタッフと一緒にやっている。	今後も季節に合わせた献立を提供し旬なものを食べていただきたい。
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	一人一人の状況に合わせて工夫している。	アルコール飲酒など、入居者が望めば、家族、主治医と相談のうえでできる限り沿っていきたい。
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	定期的に(時間や間隔をみながら)声かけや誘導を行い、排泄の習慣・感覚が身につけていけるよう支援している。	今後も声かけをしていき、一人一人に合った排泄パターンを整えていきたい。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日、入浴できるよう準備をし、日にち、時間帯を希望に沿って入浴していただいている。		入浴の記録をつけ、定期的に入浴できるよう声かけを行っている。
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	食後など、休憩(ゆったりした時間)を作り、天気の良い日は外を散歩し気分転換していただいている。		天気の良い日は外へ出て体を動かしたりフレッシュしていただいている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	月ごとの行事、ドライブや買い物など一緒に行っている。		今後は温泉など今まで行ったことがない場所へ出向きたい。
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お祭りの時など外出時、本人のおこづかいから金額を決め自由に購入していただいている。		今後も必要時には購入できる様な状態にしていく(家族の意見も聴き)
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物は入居者と一緒に行くなど、外にでる機会を日常的に作っている他、イベントや行事としてお祭りやぶどう狩り、りんご狩りへ出向いた。		今後も買い物、行事へ参加していただき外へ出る機会をもつ。
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お祭りやりんご狩り、ブドウ狩りへ出向いた。また家族とともに外出や外泊がいつでもできるようにしている。		今後も外出や行事を増やしていきたい。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話や手紙もやりとりの支援をしている。		今後も継続していく。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	リビングや居室でいつでも面会できるようにしている。		今後も面会者が来られた時にきちんとあいさつし、次も気軽に来れるような雰囲気になるように努める。
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	家族の付き添いによる外出、外泊が気軽にできるようにしている。		今後も継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		今後も家族へ声掛けをし、外出だけでなくホーム内の行事へも参加していただきたい(クリスマスなど…)
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		今後は全体ミーティング研修等で身体拘束に関する意識を高めていきたい。
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		夜中や朝方など、職場が少ない夜間帯やむを得ず鍵をかける場合がある。
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		今後もプライベートに配慮して把握していく。
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		今後も継続していく。
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		投薬時のダブルチェックを欠かさず行っている。
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		今後も新しく入るスタッフへの指導をすぐにできるような体制をつくっていく。
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		「ひやり・はっと」報告書を十分書くだけでなく各自認識し再発を防ぎたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		日中の消火訓練は行っているが、夜間帯の地震、水害等の避難訓練は行っていない為、今後検討していく、
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		今後も話し合いをし家族とよりよい関係を築いていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		今後も入所者一人一人の体調管理に気をつけ早期発見を努めていく。
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		使用しているカルテなどに情報掲示し理解して頂けるようにしていく。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		栄養士・看護師と相談し対応している。
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		義歯の方は夜間取り外し洗浄している。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		今後も継続していく。
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		寝具はリースとし、定期的(最低週1回)のシーツ交換を行っている。
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		曜日を決め、台所、調理用具等の衛生管理を徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	日中に玄関に鍵をかけず、安心して出入りできるようにしている。 玄関まわりの掃除を毎日欠かさず行っている。	日中は鍵をかけないが訪問者にはインターホンを押していただき都度対応するようにしている。
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	毎月カレンダーを入所者の方へ作っていただき季節を感じる掲示物を貼るなどしている。	トイレへは芳香剤を使用したり外部から来られた方が不快感をもたれないよう配慮している。また、壁、廊下のは入所者の方へ作っていただいたカレンダー、絵など作品を掲示している。
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の奥にソファを置いたり、リビングに常に1人はスタッフが居るようにしたりと、気軽に集まれるような場所をつくっている。	今後も入所者の方が居心地よく過ごせる様配慮していく。
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、その方の趣味などを大切にしたり飾り、思い出の品や写真を置くなど、本人にとって居心地よく過ごせるような部屋作りをしている。	今後も入所者の方が居心地よく過ごせる様な部屋作りをしていく。
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝、掃除の時間は換気を行い、空気の入換えをしている。 入居者の状況に応じて冷暖房を入れるなどし対応している。	ホーム内が暑すぎたり、寒すぎたりしないよう、換気、空調を利用し温度調節を行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	浴室・トイレ・階段・廊下など、手すりを設置し、安全で自立した生活を送ることができるように工夫している。	今のままで十分だが問題が発生した場合はその都度話し合いし改善していく。
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一日の生活リズムを把握していただく様にしている。 (そうじ、食事の手伝いなどでできる事は手伝っていただいている)	今後も継続していく。
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭やテラスでの活動や畑、花壇(草取り・水やり)での作業を行っている。	春には苺を植えたり昨年と違った作物を植え収穫できた。今後も色とりどりの野菜作り、園芸活動に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	医療法人 英知会 グループホーム グッドスマイルズ
所在地	山口県山口市桜畠2丁目2306-1
電話番号	083-933-6188
開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 (11月1日現在)

ユニットの名称	ひまわり			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護1	3	要介護4	0
	要介護2	1	要介護5	0
	要介護3	5	要支援2	0
年齢構成	平均 83 歳	最低 78 歳	最高 89 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者とユニットにいる職員全員が一人一人質問事項を読み分かる範囲を書き込んでもらい最後に全体をまとめました。この自己評価をまとめた物を再度職員一人一人読んでもらいます。質問事項を読み方針や運営を行っていく中で、必要な事が有る事に気づいて頂けたのではないかと思います。
評価確定日	平成 20 年 11 月 18 日

## 【サービスの特徴】

当施設では入居者の方々に対しより良い生活を送って頂けるよう、食事、毎日の入浴、季節を感じる事の出来る行事に力を入れております。また入居者の機能の維持を目的として、毎朝のラジオ体操や機能訓練、脳活性のプログラムを取り入れ参加して頂いております。下肢筋力維持向上のためにも散歩を毎日の日課とし、季節を肌で感じて頂いたり、立地条件を生かし歩いて買い物に行くなど地域との交流や接点を持ちながら生活圏を広げ、より豊かな生活を送って頂いております。ピアノやオーディオ機器の常時活用により常に音楽を身近な物として感じて頂き情緒面にも働きかけ居心地の良い穏やかな毎日を過ごして頂けるように支援しております。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印、(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	英知会のグループホームの実践としてその方の今までの暮らし方をこちらでも継続頂ける事としその形を作り地域への関わりも同じくする	今後はもっと地域行事等に積極的に参加していきたい
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝のミーティング時に理念を全員で唱和する事によりそれを共有し確認している	新しいスタッフや入居者家族にも伝わるようパンフレットなどにも載せる
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	理念を職員事務所に掲示し具体的な実践方法について話し合いをおこなった	毎日ミーティング時に理念を復唱している
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	月1回全ユニット合同のミーティングを開き入居者が暮らしやすいよう運営者管理者と職員で話し合い進めている	毎日(朝夕)カンファレンスや申し送りを行っている
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	施設での生活の様子を通信(便り)の形で月1回発行し家族へ郵送したり他事業所病院に掲示している	今後はもっと施設行事に家族の参加や地域の方の参加を取り入れたい
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	日々の散歩や買い物など外出時に地域の方や通りがかりの方に挨拶を行ったり話しかけたりしている	施設行事に近隣の方が参加できるように考える
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の盆踊り大会に参加している 散歩時お地蔵様御大師様へお参りをする	地域の行事を把握し学校行事(発表会運動会)等にも積極的に参加したい 御大師様のお祭りにも参加したい(毎月24日)
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	散歩や買い物など日常生活を行う上で地域の方々との交流を図っている	今後も役立つ事は積極的に参加したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を回覧し皆に読んで理解してもらう	今後も自己評価及び外部評価を行っていききたい
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に一度運営推進会議を行い地域行事の情報を得て参加している	夜間帯、地震、水害時の避難訓練を実施していきたい
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営上不明な事が出た場合には電話や窓口に出向き直接に市と相談し実行している	山口市の判断が必要なので直接指導を受けたりインターネットで調べたりしている
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	それぞれ職員が個別に学ぶ機会を設けている	今後外部研修や施設内研修などで知識を深め利用者へ活用したい
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入浴時などには身体観察を行う 傷アザなどカルテ記入時には原因を常に明記する事で何事も隠し事のない環境を作り常に防止に努めている	精神的ストレスなどにも気を付け言葉使いにも配慮をしていきたい
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前には説明会や個別に家族と充分話し合いの場を持ち施設側の方針と家族の意向を互いに理解できるようにしている	個別での十分な話し合いを徹底し継続していく
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員は常に入居者の様子観察や日々の会話の本意をくみ取る様にし毎月センター方式の関わりシートに記入する事で良い関わり方を実践している	家族や入居者からいつでも意見が言える環境を作る
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	請求書と一緒にスマイル通信や入居者便り送付している 来所時には日々の様子を話している	職員体制を整えその都度家族へ報告していきたい



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		家族より情報開示の要求がいつ有ってもいいように対応する
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		常に家族と良好な交流関係を築いて、苦情不満を訴えやすい関係を作っていききたい
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		緊急の場合はその都度職員を集め検討する
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		要望 意見が有ればすぐに対応していく
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		今後も職員からの挨拶声掛けを積極的に行う
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		月1回のミーティングと毎日の申し送り時にミニカンファレンスを開いている
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		それぞれの年代、男女のスタッフを配属していきたい
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		他の施設や事業所に見学に行く機会をつくる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		ストレス具合を見極め、必要に応じて、速やかに改善していく
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		スタッフ全体で共有し、日々、利用者のよりよい支援を行っていきたい
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		今後も管理者、職員は研修へ積極的に参加し、仕事に対して質の向上に努めたい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入所された時、スタッフ全員のその方の情報共有を行っている
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		センター方式を活用しつつ、ご本人の状況や家族間の様子を知るよ努める
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		今後も今までのやり方ですすめていく
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		施設の移行が本人に受け入れられるようデイサービス施設から利用開始し、施設へ馴染みの関係を作っていく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		「手伝ってもらう」のではなく、スタッフが「何か手伝いましょう」の声掛けで利用者全体である事の意識をスタッフが持ち続ける

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	外出での楽しかった様子を家族から聞き、利用者、家族、スタッフで共に喜びあう		一ヶ月の様子を顔写真と共に文章にて送付している
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家人の面会時には、スタッフから声掛けを行い、日々の様子を報告している		これからも家人への情報発信を行ってきたい
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族と相談し、友人・親戚の面会を受け入れ、馴染みの方との関係が維持できるようにしている		スタッフの異動があまりないように配慮したい
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	リビングで一緒に過ごしたり、利用者と一緒に散歩や買い物に出かけている 来客時には他の利用者がお茶を出すようにしている 対立的な人との関係にはスタッフが入る事もある		常に穏やかな毎日を過ごして頂けるよう、利用者の本意を見逃さない
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	特に退去者に対する交流は、こちらからは行っていない		今後、その必要性があれば、対応していく
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	しっかり傾聴し、入居者どう過ごしたいのかを一緒に考え、いい方向に進める また、日常の会話の中でヒントがないか常に考える		新しい情報はスタッフ間で報告し合い、常に情報を共有している
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活のいろいろな場面で、利用者の生活歴などを導きだせるよう、話を展開する		センター方式を活用しながら、家族、本人からの情報を常に把握していく
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活のいろいろな場面で、利用者の生活歴などを導きだせるよう、話を展開する 外出、散歩など行くメンバーをよく考え、本人のあったペースで行う		毎日の申し送り時に日中の様子を知らせ、伝達ノートにも必要に応じて記入する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、スタッフの意向を取り入れ必要に応じて介護計画を作成している	家人の来訪時、要望等がないか声掛けをしている
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1度の定期的なカンファレンスを行う 途中状況が変われば、その都度、朝のミーティング時などで話し合う	今後もこの支援を継続していく
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の介護記録に、体調、食事の様子、言葉など記入している	常に記録の見直しを行い、よりよいケアを目指す
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	看護師を配置し、病状や通院について家族と連携を取りながら行う	今後もこのような支援を継続していく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	推進委員会の定期的開催により、地域のそれぞれの分野の方と話し合いの場を作っている	今後もこの会の充実へ向けた取り組みをしていきたい
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	大学生のレクリエーション、地域の方の見学を実施している	行事を開催していく中で地域や家族への関わりを増やしたい
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	特には行っていない	今後、その必要性があれば、その支援をしていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		今後も情報交換を行い、協働していきたい
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		今のまま、医師の往診を継続していく
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		状況の変化を主治医へ報告していく
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		今後も医師と看護へ個別の状況を常に報告していく
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		今後も必要があれば実行していく
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		今後も文章による納得、確認、了承の印を押して頂く。その都度、話し合い、最善の道を決めていく
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		今後、主治医の判断を基に家族本人の希望を速やかに取り入れ決定したい
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		今後も他機関との連携を図る

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>否定をせず、肯定することにより、一人ひとりの希望や意見を尊重する カルテは常に鍵付きの棚に保管している</p>	<p>今後も個人情報の厳守を怠らない</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>緩下剤の使用決定を服用時にその都度、本人と相談して決めている人もいる</p>	<p>今後も本人の意向にそえる様、配慮していきたい</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>家事は一人ひとりに合った事をしていただき、スタッフができない部分を支援している</p>	<p>同じ事でも個人差がある事を把握し、全員が同じ支援にならないよう見極めていく</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>常にどうしたいのか、「今、忙しいですか？」等、本人の都合を聞くようにしている</p>	<p>今後も個人のペースをそれぞれ考慮し、強要せず、見守りをしていく</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月1回移動美容室の車が来る それ以外にも、家族と一緒に行きつけのお店に行っている</p>	<p>今後も継続していく</p>
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>盛りつけや台拭きをしたり、食器も各自で片づけられている</p>	<p>「自分の食事を作っている、準備している」という意識付けを心掛ける</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>嫌いなものに関しては、調理方法を工夫し、一人ひとりの好みに合わせている</p>	<p>飲酒希望の方にも、家族、主治医と相談し、希望にそっていきたい</p>
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>歩行が不安定な人は、スタッフが手引き誘導をしたり、声掛けをしたりする 個人に合った、排泄パターンの把握をし、誘導、パットの使用回数を減らす</p>	<p>今後も一人ひとりに合った排泄パターンを支援していきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日あり、本人に声掛けをすることで、いつ入りたいかを決めていただいている		就寝前の入浴希望者にも可能な限り対応していきたい
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	無理な起床の声掛けはしない		今後も本人のペースに合った穏やかな生活を送って頂く
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩など外に出ていただく機会を多く持つ 畑づくり、一人ずつ当日の誕生日会とプレゼントを贈る		今後も、継続していく
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お祭りの時などは希望に合わせ、自由に購入して頂いてる		買い物、外出時に財布(個人)持参を行いたい
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩、地域行事に参加している 散歩を毎日の日課としている		今後も外出の機会を増やし、本人の希望にそっていきたい
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	スタッフが対応できない時は家族へ連絡し、希望を叶えて頂くような声掛けをしている		新しくなった商店街へ出かけ、昔の店がどう新しくなったか知っていただく
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやりとりの支援をしている		利用者への手紙の声掛けを行う
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	リビングや居室で常時面会できるようにしている		面会者への挨拶を行い開放的な雰囲気努める
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	家族の付添いによる外出、外泊が気軽に来れるように対応している		今後も対応し継続していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年1回の家族参加行事を行う		今後も少なくとも年1回は家族参加の行事を継続していきたい
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	個人の判断で対応している ケアプランにスピーチロックをしないとの内容をあげている方もおり個人の尊厳とは何かを具体的に話し合った		今後施設内研修や外部研修などで身体拘束に関する意識を高めていきたい
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかける事による利用者へのストレスの話し合いを行う 常に利用者への様子を把握しスタッフ同士の声掛けを行う		夜間 朝方など職員の少ない時間帯はやむを得ず施錠する
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	出入り口にベルを設置し様子を見守りする 又、職員同士の声掛けで全員の状況を把握する 夜間2時間ごとの巡視		今後もプライバシーに配慮し把握する
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁は手の届かない所に保管している		今後も継続していく
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	年2回の避難訓練を実施している 配薬 与薬のマニュアル化 Wチェック チェック表の活用		常に災害や事故の予測を行いながら支援していく
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時や事故発生時の対応について内部研修を行う		全職員が救命救急の講習など外部研修などにも積極的に参加していきたい
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書 ひやりはっと報告書を作成し、その日の勤務者で即座にカンファレンスを行い全職員にも報告書を確認し意見など出し合うことにより改善を図っている		今後も報告書を念頭に危険、事故の予測をしながら支援していく



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議に地元の消防団の出席を依頼している	夜間帯、地震、水害時の避難訓練は実施していない為、今後検討の必要がある
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	居室内での転倒や夜間帯のリスクなど家族と話し合い理解して頂く	今後も話し合いをし家族間とのよりよい関係を築いていきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝夕の申し送りや職員の連絡ノートを活用する事で情報を共有している	今後も毎日のバイタルチェックを行い体調変化異変の発見に努める
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人一人の薬袋に入居者の名前、薬の種類を記載している症状の変化も職員、看護師、医師、薬剤師と情報を共有している	今後も情報の理解を怠らない
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	本人の状態や嗜好を考慮し飲み物の種類や食べ物の工夫をしている 排便の少ない方には日中の活動量を増やして頂くよう声掛けを行ったり支援している	自主的に水分摂取をして頂けるよう今後も工夫をし声掛けを行っていききたい
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	歯磨きの声掛けの必要な方には行き義歯などの清掃が必要な方には週二回義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている	今後も毎食後の口腔ケアの声掛け 支援を行っていく
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事摂取量、水分摂取量をチェック表に記入している刻みや一口大に切る事でその人の食べやすい形態にする	今後もチェック表を活用していきたい
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	予防接種の実施 食事前や外出後には手洗い消毒を行う 職員 入居者とも調理時専用のエプロンを使用する	手洗い消毒の徹底 定期的な寝具の交換を行う
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日決まった時間に調理用具は漂白剤を使用し消毒をしている 食中毒予防の貼り紙を目につきやすい場所に掲示している 食材は常に最良な保管の仕方と賞味消費期限の確認を行う 夏季は生物の使用をさける	今後も貼り紙やさまざまな情報などで意識を高めていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	日中は玄関の施錠を行わずいつでも気軽に出入りできるようにしている	今後も継続していく
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	月ごと四季に応じた飾り付けをする 季節の花を飾る 日中は馴染みのあるBGM(童謡唱歌、環境音楽)などを気持のちょうど良い音量で常に流し自然と口ずさんだり居心地の良い感覚を味わえるような工夫をしている 夏季の日差しの強い場所にはすだれ、立てすの設置を行う	今後もより季節感を味わえる雰囲気を利用者主体で考え行っていきたい 常に居心地のいい環境とは何か考えて支援していきたい
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングや廊下に於いてソファやテーブルの配置を工夫している	一人になれる空間や馴染みの入居者と思いきい思いに過ごせる時間場所を作り職員の間がある事による緊張感をなくすための配慮をしていきたい
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れた本人のタンスやクローゼット 道具を使用されている	必要な方にはに応じて家人にも相談する
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的な換気を行う リビングに温度計を設置している トイレ内に異臭の無いよう芳香剤や換気扇を使用する	今後も継続していきより快適な生活空間を作っていく
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	動線を防ぐことのないよう障害物となるソファやテーブルの配置を工夫し歩行しやすい広さを確保している 移動物(ホワイトボード テーブルワゴン 車いす)等は使用時以外は常に決められた場所に片付けておく	今後も入居者のペースに合わせた支援をしていく
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	その人の出来る事、出来ない事の見極めを行い支援の統一を図るよう職員同士で報告を行い情報の共有を行っている	一人の方に何人ものスタッフがさまざまな違う声掛けをする事で混乱しないように支援の統一を行図るよう意識を高める
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	2階からの風景をベランダに出て楽しんでいただく 畑にて野菜を作ったり植物を植えて戸外での活動が身近に出来るようにしている	今後もより良い生活空間で楽しんで頂けるよう立地条件を生かしながら支援していく

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない